

第19回府中市工業技術展 ふちゅうテクノフェア ものづくりセミナー in 府中のお知らせ

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（都産技研）は、第19回府中市工業技術展・ふちゅうテクノフェアにおいて、「ものづくりセミナー in 府中」を開催いたします。

都産技研は、景気低迷の中、懸命に新製品開発に取り組んでいらっしゃる中小企業の皆様のお役に立つよう研究開発事業を進めており、その成果を発表いたします。「ものづくりセミナー in 府中」に是非ご参加下さい。

<日時> 平成21年2月6日（金） 10:30～12:00 途中での出入り可

<会場> ルミエール府中（府中市市民会館）1階 第1, 2会議室
 （府中市工業技術展 ふちゅうテクノフェア会場）
 東京都府中市府中町2-24

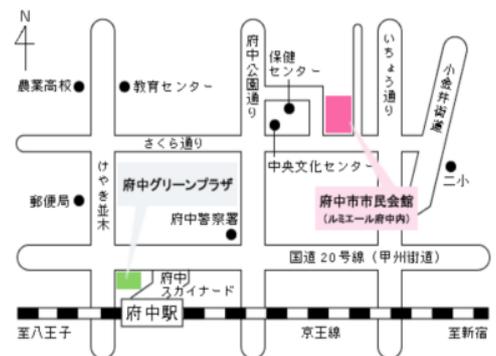
<参加費> 無料

<参加申し込み> 下記へ電話でお申し込み下さい
 むさし府中商工会議所・府中市工業技術展実行委員会
 TEL 042-362-6421 FAX 042-369-9889

<本セミナーについてのお問い合わせ先>
 東京都立産業技術研究センター 経営情報室広報係
 TEL: 03-3909-2151 FAX: 03-3909-2590

府中市工業技術展・ふちゅうテクノフェアについては
 下記ホームページをご覧ください

<http://www.tama5cci.or.jp/chamber/tekuno19kaisai/index.html>



・京王線府中駅下車 徒歩6分
 ・JR中央線 武蔵小金井駅より
 府中駅行バス ルミエール府中下車

<プログラム>

- | | | |
|--|--------------|--------|
| 1. 視覚障害者用生活支援機器の開発
- 発想の転換で新分野へ参入 - | デザイングループ | 島田 茂伸 |
| 2. 製品開発における問題解決のための電磁波対策技術と最新電波暗室 | エレクトロニクスグループ | 西野 義典 |
| 3. 照明用LEDの光学特性の測定と評価 | 光音グループ | 岩永 敏秀 |
| 4. 計測のトレーサビリティとJCSS（計量法校正事業者登録制度） | 製品化支援室 | 佐々木 正史 |

発表概要は裏面をご覧ください

<http://www.iri-tokyo.jp/>

【お問い合わせ先】 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

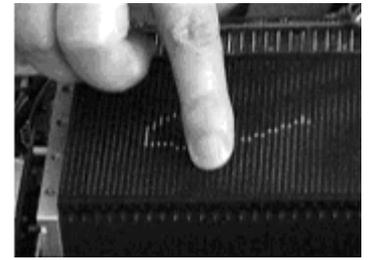
経営企画本部経営情報室 澤近 洋史 TEL 03-3909-2431 FAX 03-3909-2591

< セミナー概要 >

視覚障害者用生活支援機器の開発 - 発想の転換で新分野へ参入 -

……デザイングループ 島田 茂伸

情報化時代といわれる現代では、情報機器を介して情報にアクセスすることが、色々な生活場面で必要となっています。情報機器の多くは、GUI(グラフィカル・ユーザ・インタフェース)を採用していますが、現状のGUIは、視覚情報を利用できない重度視覚障害者にとって大きな障壁となっています。こうした問題を解決するため、視覚情報を伝える手段の一つとして、触覚ビンディスプレイが開発されてきています。これまでの研究開発では、主として表示機能の向上に力が注がれていましたが、これからは、重度視覚障害者が図形や画像情報に馴染むための環境や、受け取るだけでなく作成し、利用し、発信するような環境の整備が必要です。また「触って解る」迄には相当の経験的知識の蓄積が不可欠です。本装置はこうした知識獲得や、ユーザ自身による触覚固有の表現の発案を支援する道具として役に立てることを目的として開発しました。

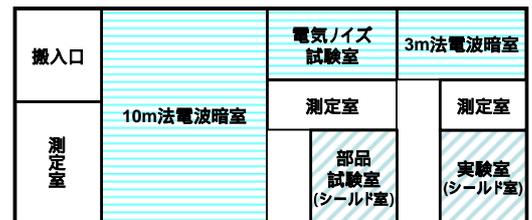


触覚フィードバックのみで書かれた「や」。

製品開発における問題解決のための電磁波対策技術と最新電波暗室

……エレクトロニクスグループ 西野 義典

電子機器の高速化、高密度化に伴って、電磁波ノイズによる電子機器の誤動作が問題となり、電磁波ノイズ対策が大きな課題となっています。デジタル機器は、クロックの周波数が高くなると電磁波ノイズが大きくなります。クロック周波数が50MHzでは気が付かなかった電磁波ノイズが100MHzでは大問題となることがあります。電磁波ノイズが大きくなると、機器の誤動作の原因となるため、電磁波ノイズの低減策が必要となります。また、電磁波ノイズの強さを制限したVCCI等の規制が存在するため、ノイズを規制値内に収める対策が必要となります。こうした電磁波対策のため、電波暗室を使用して開発・評価を行います。

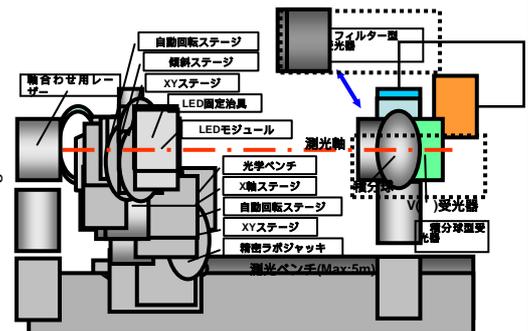


平成21年度に新多摩拠点に開設予定の最新の電波暗室

照明用LEDモジュールの光学特性測定方法

……光音グループ 岩永 敏秀

近年、LEDモジュール(LEDを複数個使い、レンズ・反射板等と組み合わせた光源)は、省エネ型の次世代照明用光源として期待されています。照明用途として用いるためには、その性能の評価として、照度・光度・配光・全光束などの光学特性の正確な測定が必要です。しかし光学特性を測定する際には、LEDモジュール特有の誤差要因を考慮した測定を行う必要があります。都産技研では、誤差要因を考慮して精度を向上させたLEDモジュールの測光システムを開発したのでご紹介します。ご利用の一助となることと思います。



計測のトレーサビリティと JCSS(計量法校正事業者認定制度)

……製品化支援室 佐々木 正史

ものづくりを行う上で、計測は欠かせません。産業界では、国内競争力の向上や海外への輸出など製品の信頼性の向上のため、ISO9000sの取得と維持管理に力を入れています。その審査基準の中で、製造品の評価に使用する計測器が、国家標準にトレーサブルであることが問われることから、トレーサビリティが確保された校正の需要が増加しています。

そこで、こうした産業界からのニーズに応えるため、都産技研ではJCSSの登録認定取得に取り組みました。



都産技研は、認定基準としてJIS Q 17025 (ISO/IEC 17025) を使い、認定スキームをISO/IEC 17011に従って運営されているJCSSの下で認定されています。JCSSを運営している認定機関(IAJapan)は、アジア太平洋試験所認定協力機構(APLAC)及び国際試験所認定協力機構(ILAC)の相互承認に署名しています。都産技研は、国際MRA対応JCSS登録事業者です。JCSS 0184は都産技研の登録番号です。